



からだ
体の「あか」は、なに
何でできているの

「あか」は、ひ しょうひ さいぼう
皮膚の表皮の細胞

人間の体は、小さな小さな細胞というものの集まりで、その数は、全部で60兆もあるといわれています。筋肉も骨も内臓も、みんな細胞が集まってできているのです。

もちろん、皮膚も細胞でできており、外側から順に、表皮、真皮、皮下組織に分かれています。そして、「あか」は、皮膚のいちばん表面にあるこの細胞が、少しずつはがれ落ちたもので、はがれ落ちる細胞と、ごみやばい菌や汗などが、いっしょになったものなのです。「あか」が取れることによって、皮膚についているごみやばい菌も取れて、皮膚の表面はきれいになります。ですから、「あか」は、皮膚をきれいにする、大切なはたらきをしているといえるのです。

ひ
皮膚がいつも同じ厚さを保っているのは

皮膚の表面では、古くなって死んだ細胞が、「あか」となってはがれ落ちるため、皮膚は、どんどんうすくなっていくように思います。

しかし、皮膚のいちばん深いところでは、新しい細胞がどんどんできて、次々と皮膚をつけ加えています。そのため、皮膚はいつも同じ厚さを保ていられるのです。

(監修・保志 宏)

